

事務所長からのメッセージ

- 道北地域の景気は、弱めの動きとなっています。8月7日に公表しました「[金融経済概況（道北地区）](#)」では、基調判断を先月と同様の表現に据え置きました。
- 当月の状況を一言で申し上げれば、「公共投資が低調に推移する中で、個人消費、設備投資が弱く、住宅投資がなかなか増勢に転じていかない。こうした中で、雇用環境は一段と厳しさを増している」ということとなります。
- 個人消費については先月に判断を「弱めの動き」へ下方修正し、その後の状況を慎重に見ています。雇用者所得の改善が捗々しくない中で、食料品やガソリンの価格高騰を主因として節約志向が一段と強まっており、衣料品を中心とした小売や自動車の販売、そして観光にも一部影響が出ているようです。また、雇用環境については、新規求人の低迷や有効求人倍率の低下等、一段と厳しさを増しています。加えて管内では大口の倒産も発生しました。
- このところ、やや重苦しい情報が多いのですが、景気は気からという部分もあります。当面の景気情勢を冷静に見極めることは重要ですが、実態以上にマインドが悪くならないように、志は高く持って、前向きに対処していきたいものです。
- 去る7月30日、「[夏休みこども見学会](#)」を実施しました。小学生を対象に、お金のことや、経済の仕組み、金融の役割などを勉強してもらいました。次世代を担う若い人たちが、安心して心豊かに暮らすことができる経済社会を築くために、今私たちがやれることは何か、常に考えていきたいと思えます。

平成 20 年 8 月 7 日

尾家 啓之